



検査科タイムズ



より早い検査体制の構築で院内感染対策の一助に！

Vol 3

発行日

H27.12.16

発行責任者

小池 敦

【感染症検査情報】抗酸菌検査

TB-PCR・MAC-PCRが 検査室で測定可能に！

12月1日より（株）ロシュ・ダイアグノスティックス・コバス TaqMan 48（PCR 検査用核酸検出・増幅装置）を使用して結核菌群 PCR（TB-PCR）・非定型抗酸菌群 PCR（MAC-PCR）が院内検査室にて測定可能となりました。

抗酸菌群は、結核菌群と非結核性抗酸菌群に分けられます。結核菌群のうち主要な菌は、結核菌であり、ヒトからヒトへの強い感染性を有します。非定型抗酸菌群の主要なものはマイコバクテリウム アビウム（以下、“M.アビウム”と略す）とマイコバクテリウム イントラセルラー（以下、“M.イントラセルラー”と略す）であり、結核菌と異なり、ヒトからヒトへの感染性は無いとされています。非結核性抗酸菌は水や土壌などの環境中に存在し、日本での非定型抗酸菌症の約80%は、M.アビウム、M.イントラセルラーの2種類の菌が占めており、M.アビウムおよびM.イントラセルラーの感染が起因する疾患を



コバス TaqMan48
(PCR 検査用核酸検出・増幅装置)

MAC（マイコバクテリウム アビウム コンプレックス）症と分類しています。MAC 症は結核の症状と似ているため、混同されることが多く、早期に結核症か非定型抗酸菌症かを診断することが、

その後の治療に重要となって来ると同時に院内感染対策には大変に重要です。この度、TB-PCR・MAC-PCRの両方を検査室で同時測定・早い報告をする事で、より早い段階での院内感染対策につなげることが出来ます。

依頼方法は、ナビゲーションマップ → 検体検査 → 抗酸菌群 → 結核菌 PCR → 各種検体 又は MTC/MAC・PCR セット（TB-PCR と MAC-PCR の二つを測定）となります。

また、院内感染防止の観点から、平日の日勤帯のみですが、至急検査にも対応いたします。至急の場合、検体提出からおおよそ2時間位での報告となります

PCR 法は遺伝子検査であり、検査方法が複雑であるため、担当者不在の夜間・休日・土日の至急は対応出来ません。誠に申し訳ございませんがご了承の程、お願いいたします。

詳細は細菌検査室 担当、芳賀・坂西まで（内線5334）

新規項目のお知らせ

(平成 28 年 1 月 4 日から院内測定開始)

検査科では生化学汎用自動分析装置を導入し、いままで外部委託項目でした下記の項目を院内にて測定します。

検査項目	検体	採取容器	至急対応
バンコマイシン	血清	生化学用 スピッツ	可
テイコプラニン			可
アルベカシン			可
マグネシウム			可



新たに導入する自動分析器

cobas 8000 <502>

※これらの項目につきましては平成 28 年 1 月 4 日からの依頼が院内測定になります。

1 月 3 日までの依頼につきましては、外部委託となりますので、ご了承の程お願いいたします。

詳細につきましては検査科 生化学担当 笹岡まで（内線 5332）

【学会報告】

第 90 回新潟県臨床検査学会に検査科から 2 演題発表

今年の 10 月に朱鷺メッセで開催された、第 90 回新潟県臨床検査学会にて、当院検査科より、2 つの一般演題を登録し発表いたしました。10 月開催の学会という事もあり一般演題の締め切りが 8 月末。開院してから演題登録まで 2 か月しかない中での発表に県内の検査技師の方々から驚きの声も上がっていました。発表した演題については下記になります。

「BCG 予防接種後の副作用と思われる左肩腫瘍の一症例」 発表者：細菌担当 坂西 清

「血清重炭酸の院内測定導入に際して」 発表者：生化学担当 笹岡 秀之

以下は発表者からのコメントです。

開院業務の中での時間の無い中での挑戦でしたが、年間、全国でも数例しかない症例に出会い、多くの技師にこの事を伝達したいと思い発表いたしました。今後もしかなる時でも研鑽し続けることを忘れずに、学んだ知識を少しでも患者さんのために役立てていきたいと思っております。（坂西）

日本国内でも血清で重炭酸測定しているのは数施設であり、新潟県内では魚沼基幹病院が初でありました。院内で血清重炭酸測定を導入するに当たり経験した事、血清で測定するメリットなどを発表してまいりました。今後も研鑽に勤めていきたいと思っております。（笹岡）

マイコプラズマ LAMP 法を院内検査にて

12月1日より実施開始！

保険収載：マイコプラズマ核酸検出 300 点、微生物学的検査判断料 150 点

肺炎マイコプラズマは飛沫感染によりヒトからヒトに伝播し体内に侵入いたします。おおよそ2～4週間の潜伏期間を経て肺炎を発症いたします。現在、検査室ではマイコプラズマ抗原、マイコプラズマ抗体を簡易迅速キットにて測定しておりますが、発症初期には抗体が陰性になる事がありました（ウィンドウ期）。今回、検査科では12月1日より遺伝子検査のマイコプラズマ LAMP 法を実施いたします。

マイコプラズマ LAMP 法で測定することにより発症初期から病原体の検出が可能となります。LAMP 法と培養法の相関は図のようになります。（メーカー添付文書より）

依頼方法につきましては

ナビゲーションマップ → 検体検査 → 感染症関連 → マイコプラズマ → マイコプラズマ LAMP 法 になります。

検体は咽頭ぬぐい液で採取容器は下記写真の



容器（BD BBL カルチャースワブ EZ 251817

シングルスワブ 培地無）※SPDにて請求可能

SPD 請求コード 03094180 になります

検査体制といたしましては、月～金曜日は午後2時まで提出

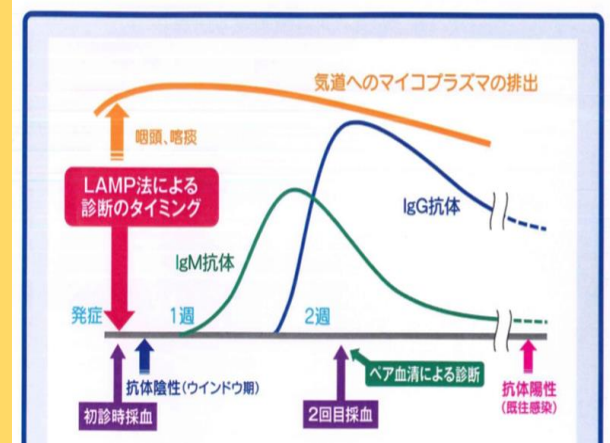
いただいた検体につきましては、提出日に測定し報告いたします

が、PM2 時以降の検体につきましては翌日の測定・報告になります。

また、平日の日勤帯のみですが、至急検査にも対応いた

します。状況により変化いたしますが、検査時間は約1時間位となります。LAMP 法は遺伝子検査であり、検査方法が複雑であるため、担当者不在の夜間・休日・土日の至急は対応出来ない事、ご了承の程、お願いいたします。

詳細は細菌検査室 担当、芳賀・坂西まで



LAMP法と培養法との相関性¹⁾

		LAMP法		
		+	-	計
培養法	+	59	1	60
	-	9	138	147
計		68	139	207

陽性一致率：98.3%
陰性一致率：93.9%
全体一致率：95.2%

LAMP法の判定結果と臨床診断との相関性²⁾

		LAMP法		
		+	-	計
臨床診断	+	68	8	76
	-	0	131	131
計		68	139	207

陽性一致率：89.5%
陰性一致率：100.0%
全体一致率：96.1%

編集後記

一段と寒さが増してまいりました。朝、病院へ向かう時に見える山たちが、どんどん白くなっていくのを見ると冬の到来を実感いたします。そしてついに、朝、車を出そうとしたらフロントガラスが凍っていて、更に「冬だな・・・」と実感しました（泣）

今年は暖冬だと言われていますが、寒いのには変わりないので、みなさん体調には気を付け、何かと忙しくなる年末年始を乗り切りましょう。年賀状書かなきゃ♡ (A・I)